

1学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

1学年 第63号

2016. 3. 23 (水) 発行

平成27年度の最後に

文責 堀米

本日3月23日(水)は平成27年度修了式でした。年度内で全員が揃う最終日、次に集まるのは4月7日(木)で、その時には2年生の新クラスになって教室に入ります。来年度の担任は誰になるんでしょうね。

今年一年間で発行した学年通信はなんと63号。単純計算で1月に5号、長期休みを考えなければ週1ペースで出したこととなります。それだけ盛りだくさんの一年だったということですね。平成27年度の締めくくりの学年通信は1年生担任団の先生方からのメッセージです。今年一年、大いにお世話になった(迷惑をかけた?まさかね。)先生方から2年生になる君たちへ向けた言葉と、そこに込められた気持ちを受け取ってください。

My Way ~私の道

1組担任 芳賀有美子

2学期から始めた英語毎日課題、My Way。英語の学習習慣の確立と、基礎力の定着を目指して始めた。My Wayのおかげかどうかは定かではないけれど、君たちは文法・語法・表現力を中心に着実に力をつけているよ。

My Way 作成のポイント① 取り組みやすさ。見ただけで嫌になる……、なんてことのないように、B5の用紙で問題数も「これならできる」と思えるようにしています。

My Way 作成のポイント② タイムリーな復習。やったばかりの文法事項、ちょっと前にやった文法事項、模試、定期テストなどを、適時に復習できるように……と考えています。

My Way 作成のポイント③ 見やすい解説(にしているつもり)。授業での解説をイメージして、手書きで解答・解説を作成しています。

My Way は、まずネタ選びから始まって、原本作成、解答・解説作成、印刷、配布、そして集まってきたらチェック、声掛け……。これが毎日繰り返される。

「毎日の提出でなくしたら……」「解答は手作りでなくしたら……」いろいろな人が心配してか声をかけてくれる。けどね、私にとってはMy Wayは楽しい。これで、(全員とはいかなくても)多くのお友達が取り組んでくれて学習習慣がつく、英語の基礎力がつく。そう思えば苦にはならないどころか楽しい。My Wayを通して、毎日みんなと会話しているみたいで思っていて、そしてチェックしていたよ。

私が教師になってずっと心に留めていることは、目の前の生徒たちにとってたった一度のたった3年の高校生活に自分は関わっているんだということ。後で、もっとこうしてあげられたのに、もっとできたのに……。なんていう後悔は決してしたくないということ。

だとしても、もし君たちが私を拒否し、私のそんな思いを否定するような生徒たちだったとしたら、私はこんなMy Wayなんてできなかつたよ、絶対に。



君たちは明るく優しく頑張り屋で、そして楽しくついてきてくれる生徒たちでした。私は、他の誰でもない、君たちからパワーをもらってMy Wayをやっていたんだよ。

これから、大学入試を乗り越えていく君たち。今までの先生方に加えて、新しい担任の先生ができたり、新しい教科の先生に出会ったりすることでしょう。その時、先生方にパワーをあげられる生徒であってください。「この生徒たちのために頑張りたい」と思わせるような生徒であってください。人を理由もなく拒否し、排除するようなことがあれば、その人から一生パワーなんてもらえない、それどころか自分にとっても大きなマイナスとなってかえってくる。逆に人にパワーをあげられる人は、まわりからたくさんパワーをもらえ、自分にとって大きな力にできる人なんだと、私は思っていますので。

そして、ついでに私にもパワーをくださいね。

上京の「京」は平城京の「京」

2組担任 後藤美穂

私が「上京」という言葉を使うのは平城京(奈良)に行く時です。高校1年生の時に行った修学旅行で平城京と平安京にいったことが、自分の進路の方向性を決めました。ですから、私は自分の目で見ること、実際に見に行くこと、経験することを重視しています。判断に迷った時は、行動することで道が開けるときがあります。誰かに言われてから行動するのではなく、自分から一歩踏み出しましょう。

あっという間に1年が過ぎました。2組は元気でにぎやかなクラスでしたね。いつも現代社会の多田先生から「2組さんは、反応がよくていいですよ!」と言われ、「ご指導ありがとうございます!!」と言いつつも、心の中では「んだのが、んだのが。でも、私は授業ねえがらの一」とちょっとさびしく思っていました。ですから、たまに授業風景のぞきにいたり、多田先生が出張の時には授業をもらって2組の様子を見てみたり。特別時間割で1学年地理デビューしたときは、とても楽しかったです。

今日で1年2組は発展的解散です。みなさんの興譲館ヒストリーは新しい時代に入ります。2年生の成長を期待しています。新年度もどうぞよろしく。



1年 3組担任 山口大輔

君たちが興譲館に入学して、1年がたとうとしている。私の人生の中で、これほど短く感じた1年はなかったと思う。

入学式、私自身の記憶がうすい。とても緊張していたのは覚えている。体育祭、みんなが勝てるわけないとか言いながら、一つも賞状をもらえず、何とも言えない悔しさが教室に充満していた。興譲祭、体育祭のリベンジを誓い、勝てる曲で合唱コンクールに臨んだ。全員が一生懸命練習するという難しさを知ったのではないだろうか。ただ、本番の合唱は胸に響くものがあつた。こうして考えてみると、充実して思い出深い1年であった。



しかし何より、私としては生物の授業の雰囲気素晴らしかったと思う。これまで、あの雰囲気の授業をつくりたいと思い、様々なことを試みたがうまくいったことはなかった。3組のみんなだからこそのあの雰囲気だったのではないだろうか。実は他の先生方にも授業がやりやすいと評判であった。

4月からはそれぞれが別々のクラスになる。是非3組のいい雰囲気を学年全体に広めてほしいと思う。

トイレの神様 4組担任 川原吹いつみ

1年4組は、トイレの隣のクラス。夏は暑くて、冬は寒い。その上、廊下は暗い。そんなクラスの担任の仕事は、「クラスを明るくすること」である。この1年の間、せっせと絵はがきを貼ったり、花を育てたり(趣味?)、リースを飾るなど、色々と手を尽くしてみた。その4組の授業といえば、授業中は静かで、休み時間はうるさい。こう書くと一見理想的に思えるが、ただ単に授業中寝てるだけ? 3学期のそれぞれの目標を見た時、「授業中に寝ない」の多いこと、多いこと。それは目標なのか?!と突っ込みを入れつつ、もう1年が終わりになる。実は総合3位だった体育祭や、雲海の見えたフィールドワーク(そして雪で私は滑った……)、芋煮会はおいしかったね。ユニークで賑やかな男子としっかり者の女子(おかげで助かりました!)の4組だった。クラスは解散になるが、また2年生の新しいクラスのもと、明るく元気に学校生活を送ってほしい。



「レクイエム」という音楽 5組担任 土井広一

先日、大好きなフォーレのレクイエムを聴く機会がありました(年度の締めくくりの学年便りにレクイエムについて書くのもどうかと思ったのですが……)。



「レクイエム」はこの世をはなれた人のために奏でられる音楽で、テキストにも神への祈りやあの世での安息を願う言葉が綴られます。先日耳にした演奏はそれらの言葉が丁寧うたわれた、とても素敵なものでした。

でも……、その厚い音楽を聴きながら思ったのです。あの世へ行った人のための音楽であるレクイエムは、実はこの世に残されたわたし(たち)のための音楽であるんじゃないか、と。パイプオルガン付きのオケと120人の合唱団で高らかに歌われたレクイエムに包まれながら、改めてその音楽を求めているのは(こちら側にいる)自分自身なんだなあ……と、そんなことを考えていました。レクイエムという音楽は、とても逆説的な音楽だと思うのです。

世間でいわれていることと、自分自身が感じる・考えることとがなんだか違う、ということがあります(ここから急に本題)。正しいものとはなにか。正しくないものとはなにか。ボーダーは絶えず行ったり来たりしています。方向感覚をきちんともって、五官を使って自分の位置をしっかりと確かめながら、地に足を着けて行きたいものだなあ、と、そう思うのです。

一年を振り返って 1学年副担任 渡部弘美

偶然にも、自分の子どもが卒業したその学び舎に勤務することになり、そして、横山学年で充実した1年、かつ、あっという間の1年を皆さんと過ごすことができました。入学してすぐに「興譲の精神」を学び、校歌・応援歌を全力で歌いあげる姿を見て、私も3組にある「母校愛の熱弁」を時折読み、FWでの大巔からのすばらしい眺めとゴゼンタチバナが咲く美しい風景を目の当たりにし、興譲館の歴史と伝統に深く感じ入る場面が沢山ありました。授業でもみなさんのまっすぐに、そして主体的に取り組む様子が見られる沢山の場面がありました。部活動でも弓道部の畑仕事に感激し、人生初めて鍬を持ち部員と野菜を育て収穫の喜びを体験しました。特に、去年の冬に調理科

学部で伝統野菜の継承活動をした時に、掘り起こした土の中に大きなミミズを発見した部員が、おおよその高校生はおっとびっくりする場面で、その土の豊かさをずばり感想で指摘したことなど、本質を見抜く力・感性の豊かさに感動。また、学年行事のいも煮会や調理実習でしっかりばくばく食べる姿が頼もしく感動。そして楽しむ力も旺盛。2年になっても成長の種が沢山あり、深い学びを経験すると思います。高校生活2年目も一期一会、全身で学んでください。



旅立ちに寄せて 1学年副担任 堀米祐一郎

卒業式も終わり、職員室には続々と3年生の合格報告が届いています。これから彼らは新たな生活に向けて日本全国へと飛び立っていくことでしょう。4月から彼らが経験するであろうことを想像すると、こちらまでわくわくしてきてしまいます。さらに高校入試も行われました。来年度から興譲館生になることを目指す受験生たちが一生懸命試験に挑んでいました。春に向けて大きな動きが続いています。

学生さんは金はないけどヒマはある、などというキャッチコピーがありました。若いうちは時間と体力にまかせていろいろなことをやってみるものです。勉強をするのはもちろんですが、この時代でなければできないことをやってほしいものです。私は大学の長期休みになるたびに時刻表を見て計画を立て、リュックサック一つ背負って鈍行列車に乗っていました。観光するでもなくひたすら電車に乗り続け、10時間ほど乗りっぱなしだったこともざらにあります。気付けば日本の北端から南端まで行ってしまっていました。

時刻表と路線図以外は無計画な旅ですから、いろいろな経験をしました。山の中で誰もいなく周りに何も無い駅で乗り換えのために2時間待たされたり、気が付いたら電車の中に乗客が自分ひとりになっていたり。飛び込みで入ったホテルが真夏なのに空調が壊れていてうす暗く、その上明らかに間取りがおかしい部屋で一晩過ごしたこともありました。一番ハードだったのは九州→四国旅行の時。鹿児島に着いたときに台風が上陸、そのまま大分まで風雨の中北上。大分で飛行機のキャンセル待ちをしているとますます天候が悪化し、飛行機が飛ぶのか心配しました。どうにか飛んで四国に入ると、空港でも暴風雨。そこから四国北岸を周って瀬戸大橋から本州に戻ったのですが、その間ずっと車窓は暴風雨でした。どうやらわざわざ台風と並走して北上していたようです。



電車の旅に魅力を感じるポイントは人それぞれでしょう。私は長い距離を移動することが一番の魅力だと思っています。ひたすら乗りっぱなしでずっと遠くまで行くこと、駅を出たら全く違う街並みが広がっていること。場所によって目まぐるしく変わったり全然変わらなかったりする車窓の景色。自分が遠くに来たんだということが実感できます。長距離長時間といえば寝台列車だったのですが、時代の流れというものか、今となっては多くが廃止されてしまいました。大阪-札幌を結ぶトワイライトエクスプレス(所要時間は片道約23時間!)などは私の旅の理想形でした。またそんな旅がしたいなあ。

学生時代にやったことは普段意識しなくとも自分の中に残るものです。私が全国に行った証拠写真は学生時代からの度重なる引っ越しの中でどこかに行ってしまったのですが(多分段ボールの底の方)、時折ふと思い出すことがあります。ぜひともそんな体験を試してみてください。私は4月から山形南高に赴任することになりました。皆さんがそれぞれオリジナリティあふれる学生生活を送ることを期待し、いつかどこかでまた会えることを楽しみにしています。